

◇ 国 語

国 1-1～国 1-18 まで 18 ページあります。

第一問 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

人間は、その存在の最初の段階から、社会のなかで生き、そして道徳的なルールのなかで生活してきたということを強調した人に、和辻哲郎がいます。

(中略)

和辻の基本的な考えは、人間は個人であると同時に、本質的に社会的な存在であるという点にあります。人は、その存在のはじめから、人と人との関わりをなかで生きてきたのであり、ただ一人で生きる人間というのは考えられない。はじめから社会を形成し、社会のなかで生きてきた。そしてその社会には、人と人との関わりを規定する決まりというものがある。したがって社会には、はじめから倫理——それを和辻は「人間関係・従って人間の共同態の根柢たるチツジヨ・道理」と定義します——というものが存在したし、人間はそれはじめから倫理というものをもっていた。倫理をもたない人間というのは存在しない、と和辻は考えました。

人間が本質的に、個人であると同時に、社会的な存在でもあるということとを和辻は、「人間存在の二重構造」という言葉で表現しています。それを説明するために、和辻は『人間の学としての倫理学』のなかで、「人間」という言葉がもともと「世の中」を意味したことを語っています。仏教の世界観では、五界ないし五道（六界・六道と言うときもあります）という言葉があり、まずように、地獄中、餓鬼中、畜生中、人間、天上という五つの世界を区別しました。「人間」の「間」は、「中」と同じく場所を意味しています。「人間」は人間が住む世界を意味したのです。ところが仏典で、字数を合わせて、「中」を省略し、「地獄、餓鬼、畜生、人間、天上」と表現されることがありました。そこから「畜生」に対比される「人間」という意味が生まれ、やがて優勢になっていったのです。つまり「人間」という言葉は偶然の転用から生まれたのです。

和辻は、そのような言葉の **ア** 背景をおいても、「人間」という言葉が、「人」という意味と同時に、「世の中」という意味をもつことを主張しています。なぜなら、人が人であるのは、人に関わる時、つまり人間関係においてのみであるからです。

人間は、存在し始めた最初るときから、集団を形成しなければ、おそらく生きのびることはできなかったでしょう。また、言語や文化という人間のすぐれて人間的な部分も、集団のなかではじめて可能になったものです。人間とは、その存在自体が、「**イ**」を前提としていると言ってもよいでしょう。

このような理解に立つて、和辻は「人間」を次のように概念規定しています。

人間とは「世の中」自身であるとともにまた世の中における「人」である。従って「人間」は単なる人でもなければまた単なる社会でもない。「人間」においてはこの両者はベンシヨウ法的に統一せられている。…… Mensch 「人間」と Gemeinschaft 「共同体、共同社会」とを何らか別個のものとして考えるということは、我々の「人間」の概念においては許されない。

『人間の学としての倫理学』二〇頁

一人の人間であることと、共同体を構成し、そのなかで存在することとが、人間においては切り離しえないというのが和辻の倫理学の基礎にある考えであったことを、この言葉はよく示しています。

もちろん、人間にとって社会的な結びつきが必須であるということは古くから言われてきたことであり、近代になってはじめて言われたことではありません。倫理や道徳の起源を考えるとときにしばしばもちだされるものに、古代ギリシアを代表する哲学者プラトンの『プロタゴラス』^{三〇}に出てくるプロメテウスとエピメテウスの話があります。

これはギリシア神話に基づいていますが、『プロタゴラス』ではプラトン独自の脚色がなされています。それによりまずと、神々はプロメテウスとエピメテウスの兄弟に、地上に存在する動物すべてに、ふさわしい能力や装備を与える仕事を任せました。そこでエピメテウスはそれぞれの動物に、たとえば、走る速さや、大きな力、空を飛ぶ能力といったもの、あるいは体温を保つ毛や、身を守る硬い皮膚などを与えました。ところがすべての能力や装備を与え終えてから、人間には何も与えていなかったことに気づきます。そこにプロメテウスがやってきて、思案したあげく、神々のところから物を作る知恵（技術的な知恵）と火とを盗み出してきて、人間に与えました。しかしそれだけでは人間は獣にタイコウでできず、生きていくことができなかったので、

集団を作りました。いったんはそれでうまくいったのですが、しかし、人間たちはお互いをだましあったり、殺しあったりして滅亡しかけました。それを見たゼウスが、心配して、人間に「甲」と「乙」を与えたことにより、ようやく人間は絶滅の危機を免れたというのです。

ここで重要なことは、自ら抑制する心と、おきてを守る感覚とがなければ、人間は生き残ることすらできないということです。

倫理には、もちろん個人の倫理という側面もあります。私がい行為をするか、悪い行為をするか、どのような動機に基づいて意志を決定するか、ということがそこでは問われます。しかし、そもそも世界に私一人しかいないならば、そうした問い自体が無用のものになるでしょう。倫理は、もともと集団を前提にしたものなのです。集団のなかでは、自己の欲望や欲求を押し通そうとしてもうまくいきません。それを制限し、集団をイジっていくための決まりを作り、それを守る必要があります。そうしてはじめて自己の存立も可能になります。和辻哲郎はそういう社会的な側面に注目して、倫理の問題を考えようとなりました。

倫理にとって他者との関わり、共同性ということが重要な意味をもっているというのは、「倫」という漢字のもともとの意味からもわかることです。「倫」というのは、「丸くまとめられたもの」という意味ですが、それに人偏がついた「倫」は、「なま」「ともだち」ということを意味します。その「なま」の関係を規定したルールが倫理なのです。

さて、もしそのように社会のなかで広く認められている倫理や道徳が前もって存在しているのであれば、「よく生きるとはどのようなことか」という問いは簡単に答えられるように思われます。というのも、そのあらかじめ存在する倫理や道徳に従って行動することが「よく生きる」ということだと言えるからです。

しかし他方、周りの人から、あるいは社会のなかで道徳的な規範として一般的に認められているものを鵜呑みにして、それに従って生きるのが、本当に「よく生きる」ことなのかということは、当然問題になります。

まず、周りから求められるものに従って生きるということは、自分ではまったくものを考えないということです。そのように思考をテイシして、人の言うがままに生きることが、はたして本当に理性を具えた人間にとってふさわしいと言えるでしょうか。それがはたして「よく生きる」ことになるでしょうか。

さらに、自分が生活している社会のなかで倫理や道徳と言われているものが、必ずしも ウ なものではなく、他の地域の人々の考え方と違うということを私たちは経験します。また時代によって道徳的規範が変わることもあります。それを考えれば、社会から求められるものに従ってその通りに生きることが、本当に「よく生きる」ことなのか、決して確かではありません。

(中略)

和辻は、風土を三つの類型に分けています。モンsoon（アジア）と、砂漠（アラビア、アフリカ、モンゴル）、牧場（ヨーロッパ）です。そして、それぞれの地域の人々が、その風土にあった生き方をしていること、その風土にあった生活規範をもっていることを述べています。

「砂漠」を例に挙げれば、砂漠においては、自然は人間の生存を脅かすものとして、つまり脅威として人間の前に立ち現れます。したがって人間は自然と闘わなければなりません。そのために他の人間と強く団結しなければなりません。しかしそれだけでは十分ではなく、同時に、少ない自然の恵みを求めて他の集団、やはり強く団結した他の集団と争わなければなりません。そのため砂漠の風土は、外に対しては——自然に対してであれ他の集団に対してであれ——タイコウ的・戦鬪的な人間を作り上げます。そして内に対しては、集団に絶対的に服従するような規律を作りあげます。つまり砂漠的人間は、服従的でありつつ、戦鬪的であるという二重の性格をもつこととなります。

このように和辻はそれぞれの風土に応じた人間の行動や生活の規範、文化の形成について論じました。この考察からも見てとれますように、それぞれの地域には、それぞれの風土にあった倫理（道徳）が形成されます。しかしそれらは、その地域の風土に応じて形成された、その地域特有の倫理（道徳）であって、当然、他の地域ではそのままでは通用しません。

（藤田正勝『哲学のヒント』による）

問一 傍線部A・B・C・D・Eと同じ漢字を含むものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選べ。

A チツジヨ

- ①車がジヨコウする
- ②ジヨサイなく対応する
- ③ジヨロンを執筆する
- ④医療費がコウジヨされる
- ⑤相互フジヨの精神

1

B ベンシヨウ

- ①シヨウケン会社に勤める
- ②上司のシヨウニンを得る
- ③ソシヨウの手続きを行う
- ④校長にヒヨウシヨウされる
- ⑤政権をシヨウアクする

2

C タイコウ

- ①コウソを棄却する
- ②コウシユ交代する
- ③コウタイを検査する
- ④ジコウが成立する
- ⑤タンコウで働く

3

D イジ

- ①イキヨクを尽くした解説
- ②化学センイを作る
- ③イゲンのある人物
- ④ケイイを説明する
- ⑤先例にイキヨする

4

E テイシ

- ①敵の様子をテイサツする
- ②著書のカイテイを行う
- ③ホウテイで言い争う
- ④バスのテイリユウ所
- ⑤条約をテイケツする

5

問一 空欄 甲 ・ 乙 に入る語の組み合わせとして最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。

甲

乙

- ① やさしさ — しがらみ
- ② かなしみ — はじらい
- ③ かしこさ — あわれみ
- ④ つつしみ — いましめ
- ⑤ たしなみ — あきらめ

6

問三 空欄 ア ・ イ ・ ウ に入る最も適当なものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選べ。

ア

イ

ウ

- ① 具体的
- ② 逆説的
- ③ 表面的
- ④ 学問的
- ⑤ 歴史的

ア

7

- ① 関係性
- ② 道徳性
- ③ 宗教性
- ④ 家族性
- ⑤ 同一性

イ

8

- ① 哲学的
- ② 普遍的
- ③ 相対的
- ④ 象徴的
- ⑤ 限定的

ウ

9

問四 傍線部（a）「なかま」「ともだち」とあるが、そうした間柄を表わす四字熟語として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。

① 比翼連理

② 月下氷人

③ 落花流水

④ 管鮑之交

⑤ 呉越同舟

問五 傍線部（b）「人の言うがままに生きる」とあるが、そうした状態を表わす四字熟語として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。

① 付和雷同

② 我田引水

③ 温厚篤実

④ 平身低頭

⑤ 主客転倒

11

10

問六 傍線部(一)「偶然の転用」の説明として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。

12

- ① 「人間」は、仏教における五界の一つであり、「人の住む世界」を表わしていた。しかし、仏典が書写される過程で「地獄中」「餓鬼中」「畜生中」の「中」が偶然に脱落するケースが生じたことにより、「畜生」と対比される形で、新たに「人」そのものを表わす「人間」の意が生まれた。
- ② 「人間」は元来「人間」と読まれ、「地獄中」「餓鬼中」「畜生中」「天上」と並んで仏教での世界観を表わすものであった。しかし、仏典でその読み方が「人間」と誤って併記されるケースが増えたことに伴って、「畜生」に対する「人」という新たな意味が付与され、定着していった。
- ③ 「人間」は元来、「人の住む世界」を表わす言葉であったが、仏典において字数の統一を図るべく「地獄中」「餓鬼中」「畜生中」の「中」が略記されるケースが生まれた。それにより、「畜生」と対比される形で「人」という意味での「人間」という使い方がなされるようになった。
- ④ 「人間」の「間」は、「中」と同じく場所を意味しており、もともとは人の心中を表わすものとして用いられていたが、仏教では、それが「人間」——「人の住む世界」という意味で使われるようになった。その結果、「人間」は、「人」と「世の中」という二義性を有するようになった。
- ⑤ 「人間」は「人」および「世の中」を意味する仏教語であり、「地獄中」「餓鬼中」「畜生中」「天上」とともに五界を表わす語であった。しかし、仏典で「間」と同義の「中」が略記され、「地獄、餓鬼、畜生、人間、天上」という表記がなされるにおよび、「畜生」と対比される「人」の意味が優勢となり、それが「人間」として定着した。

問七 傍線部(二)『プロタゴラス』に出てくるプロメテウスとエピメテウスの話」とあるが、この話を筆者が紹介した理由として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。

13

- ① 倫理や道徳が人間にとってなぜ必要であるかということを説明するのにふさわしい例だから
- ② 倫理や道徳が神の意志によって人間にもたらされたことを強調するのにふさわしい例だから
- ③ 倫理や道徳に関して、和辻哲郎とプラトンの解釈の違いを明確化するのにふさわしい例だから
- ④ 倫理や道徳が人間の成長過程において重要な意味を持つことを確認するのにふさわしい例だから
- ⑤ 倫理や道徳が本来は集団を前提にしたものではなかったことを指摘するのにふさわしい例だから

問八 傍線部(三)「二重の性格をもつ」とはどういうことか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。

14

- ① 自分たちが集団に属している時には自然や他の集団に対して戦闘的であるが、集団に属していない時にはそれらに対して服従的になるということ
- ② 自分たちの集団よりも強い力を持つ集団に対しては服従的であるが、自分たちの集団よりも弱い集団や自然に対しては戦闘的であるということ
- ③ 自分たちの存在を脅かす他の集団や「砂漠」そのものに対しては戦闘的であるが、自分たちの生存に欠かせない自然の恵みに対しては服従的であるということ
- ④ 自分たちの力を超越する「砂漠」に対しては服従的であるが、自分たちと生存競争を繰り広げる別の集団に対しては戦闘的であるということ
- ⑤ 自分たちの存在を脅かす自然や他の集団に対しては戦闘的であるが、自分たちが属している集団に対しては服従的であるということ

問九 本文の内容と合致するものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。

15

- ① プラトンは『プロタゴラス』において、ギリシア神話に見られるプロメテウスとエピメテウスの話を原典のとおりに紹介し、それによって道徳や倫理の起源を説明した。
- ② 和辻哲郎は、「人間」という言葉の意味の変遷や「倫」という漢字の成り立ちを例として、人間をとりまく環境がしだいに多様化していったことを論理的に分析した。
- ③ 倫理には「個人の倫理」と「集団の倫理」という二つの側面が存在するが、人間は本質的に社会の中で生きる存在であるため、後者をぬきにして倫理を考えることはできない。
- ④ 集団生活をする上で倫理や道徳は必要不可欠であるが、それに何も考えずに従うことは「よく生きる」ことにはならず、かえって共同体の崩壊を招くことにもなる。
- ⑤ 和辻哲郎は、人間が古来より集団生活を営んできたことに注目し、そうした社会の中で善と悪の二つの側面が表れてくることを「人間存在の二重構造」と表現した。

第二問 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

子供をめぐる状況は、すべて学校と家庭と友人の三つで平等に培われると思います。最近、子供をめぐる問題のなかで、学校の責任だとか、家庭の責任だとか、友達が悪いとか、それぞれ言い分を言っています。ぼくは平等に責任があると思います。もしそれが、ぼくが体験したような理想的な形にならなくても、少なくとも最善と思われる状態にすすめていかなければならない。しかし、それはかんたんな問題ではないのです。

子供は親の鏡だと言いますが、ぼくの息子はじつにぼくに似ていて、ルーズで気まぐれですし、ムソウカ^Aです。家になかなか居つかなくて、飛び出してしまえば二、三日は帰りません。ぼくとそっくり同じです。たぶん、それは息子が幼いときから、ぼくという人間をじつと見つめていたからではないかと思えます。見つめながら無意識に自己の性格に組みこんでしまったのでしょうか。

ぼくは実際に、息子に直接しつけをしたという記憶はありません。一度だけ思い出がありますが、まだ幼かった頃に、ウルトラマンのおもちゃをほしがった息子を連れて買いに行ったことがあります。何とかという種類の怪獣が足りないというので、だだをこねられて、新宿や神田を軒並み探したのです。結局、見つからなくて、夜半まで探しつづけて、がっかりして家へ帰ったのです。

家へ着いたとき、息子にこう言ったのです。

「おれはおまえのために、とにかくここまで時間をかけて歩きまわって探したんだ。見つからなかったけれど、とにかくせいっぱいおまえのために義務を果たしたんだから、こんどはおまえがおれの言うことをききなさい。おもちゃはあきらめろ。いか、おまえはこういうことをしてもらうかわりに、こういうことをしなければならぬということを考えなきゃならぬぞ」

息子は小学校二、三年だったと思いますが、しばらく考えていて「うん」とうなずいたのです。

息子はぼくがいつしうけんめいおもちゃを探しまわっているのを見つめていて、たいへんだなと思い、あきらめたのでしょ

う。しかし、少なくとも、ぼくはそこで息子との契約をしたつもりでした。これは人間どうしの契約であり、けっして親の子供に対する一方的な押しつけの言いくるめではなかったつもりです。

(中略)

ぼくは、学校制度とか教師のシ^Bツとかをうんぬんする前に、なぜ、校内暴力や子供の自殺、若年者の殺傷事件がおこるのか、自分の考えを申しあげたいと思います。

近頃、中学生に二一世紀についてたずねてみると、驚いたことに、ほぼ半数の子供から、かなり悲観的な、絶望的な答えが返ってくるのです。

「核戦争で、世界中が壊滅するよ」

「食べものがなくて、飢え死にしたり、食べものをとりあつて殺しあうと思う」

「大地震がおこつて何万人も死ぬと思う」

「放射能に世界中が汚染されるんじゃない？」

このような未来像は、テレビや映画のSFドラマとかマンガで覚えたイメージかも知れませんが、あまりにもア^アで情けなくなつてしまいます。たしかに世界に危機感が増しつつあることには違いないのですが、二一世紀を社会人として迎える子供たちをおおうこの絶望感はいったいどうでしょう。

かといって、それを積極的に防止するとか克服するとかいった勇氣ある答えはめつたに返ってきません。

「戦争がもしおこったらどうする？」とたずねると、半数以上が「逃げる」と答え、「どうせ逃げられない戦争なら、しょうがないから死ぬ」と割り切っています。

「だってぼくたちが何とかしたつて無駄でしょう。えらい人が勝手におこすんだから」

こういつた諦^三観は、ひじょうに大人じみしています。と同時に、そういう大人の否定的なビジョンを子供に強烈に植えつける情報洪水や、それに押し流されるのを食い止めることもできないいまの社会や教育の弱さに、腹立たしさを覚えるのです。

見かけは平和を享樂していても、大衆の心は戦争時代よりある意味でもっとすさんで、不安な状況になっていると思います。

(中略) 最近は体制社会のなかで、ただ毎日を生き延びるというシヨセイジュツが先行して、人生の喜びや未来への期待はしだいに失われてきています。ことに若者や子供がそうです。

これはなぜかという、やはりテレビの影響がひじょうに大きいと思うのです。ぼくはテレビの一番大きな欠点は、とくに民放で、場面がどんどん変わることだと思います。つまり、たいへん深刻でほんとうに深く考えなければならぬ、あるいはクライマックスでひじょうに感激しなければならぬ場面になって、こちらがグツと心を入れたとたんに、コマースヤルがポツと出る。そこで感情が消されてしまうのです。そこでまた別のドラマがはじまるように、前のつづきがはじまってしまふ。つまり、そこでわれわれはいったん覚めてしまつて、その覚めかげんで、ある世界を客観的にのぞいているという イ に陥つてしまうのです。子供は生まれながらにしてテレビ世代ですから、つねにそれを体験しているのです。

そういう子供たちは何を考えるにも、自分と距離をおいて考えるくせがついています。それでアンケートをとると、あつげら 三 かと「世界は滅亡する」なんて言うのです。「では、君はどうするのか」と言ったら、「ぼくは関係ない」というようなことを言うのです。それはもう風吹くままにと 四 いう意味ではなくて、それはあくまで全体の話で、自分自身はどうしていいのかわからないというようなことなのです。

ほんとうに一〇〇パーセント大人の責任だと思います。なぜ大人は、自分の生きて来た道、とくに年配の方がいままで苦しみを抜いて、戦後の混乱期からいまままで築き上げてきたことをお話しにならないのか、あるいは戦争中の話を子供に聞かせてあげられないのかと思います。ただ聞かせてあげるだけでなく、そのときにおれたちは生きているのだということ、子供たちにもっと強く話していただかなければ、やはり他人事のように子供は感じてしまうと思うのです。

(中略)

現代では、数学や社会や法律は教え込まれても、コンピューターやワープロや先端技術の扱い方は学んでも、もっと重要でもっともいま必要な教育がなされていらないと思います。それは、人生というものの無限の価値、生命のソング 五、あるいは宇宙や

大自然の中における人間の重大さです。

もつとも、こういう教育は戦前も、むしろ戦時中もなされていません。しかし技術偏重、テクノロジー優先の社会がつづく以上、それと対面的な「人間らしい生活の見なおし」教育がなされていいわけです。しかも、これはつねに社会の中では声を大にして求められていたわりには効果がない。それは、幼児期からそのような教育がなされていないことが原因です。幼児期、少年期のもつともエイビ^Eンに情報が吸収されるべき時期に、それらがほとんど無視されて技術教育、人づくり教育に占められてしまうことを、はなはだ残念に思っています。

人命はかけがえがなく、人生はたった一度しかなく、死によってすべてが失われること、それと人間と同じ生命が自然界にみち、それらが密接に ウ 関係を保ちながら地球が存在するということが、地球はわれわれが住める唯一無二の天体であること、という問題まで、積極的に教え込んでいく教育が、いまこそ必要なのではないかということです。

（手塚治虫『ぼくのマンガ人生』による）

問一 傍線部A・B・C・D・Eと同じ漢字を含むものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選べ。

A ムソウカ

- ①ソウシツ感を覚える
- ③バイオリンのソウシャ
- ⑤犯人をソウサクする

②万物のソウゾウシュ

④ソウテイ内の出来事

16

B シシツ

- ①ウサギをシイクする
- ③彼はシサンカだ
- ⑤皇居にシコウする

②まだシサクヒンの段階だ

④シナンの技を習得する

17

C ショセイジュツ

- ①適切なショチをする
- ③恒久平和をショキする
- ⑤ショハンの事情

②ショカンを述べる

④ユイシヨのある骨董品

18

D ソンゲン

- ①カゲンの月
- ③人員のサクゲン
- ⑤琴のユウゲンな音色

②ゲンシユクな事実

④レイゲンあらたかな泉

19

E エイビン

- ①大統領のエイダン
- ③漢詩のロウエイ
- ⑤インエイに富む文章

②建造物のエイゼン

④新進キエイの研究者

20

問二 空欄 ア ・ イ ・ ウ に入る最も適当なものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選べ。

ア

- ① 虚無的
- ④ マンガ的

イ

- ② 排他的
- ⑤ 楽観的

ウ

- ③ 批判的

21

イ

- ① 観念
- ④ 術中

ウ

- ② 錯覚
- ⑤ 策略

イ

- ③ 不安

22

ウ

- ① 敵対
- ④ 相互

イ

- ② 主従
- ⑤ 対応

ウ

- ③ 親愛

23

問三 傍線部(一)「言いくるめ」、傍線部(二)「諦観」の意味として最も適当なものを、次の各群の①～④の中から、それぞれ一つずつ選べ。

(一)「言いくるめ」

- ① 説得すること
- ③ 有無を言わさないこと

- ② 言葉巧みにだますこと
- ④ 命令的な言い回しのこと

24

(二)「諦観」

- ① なげやりな見方
- ③ 動じない心境

- ② さめていること
- ④ あきらめること

25

問四 本文中に、筆者が息子とおもちゃを買いに行ったエピソードが記されているが、その話から読み取れる筆者の親子関係に
対する考え方として、最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選べ。

- ① 親は、何がなんでも子供の望みをかなえてやろうと努力するべきである。
- ② 親子であってもお互いに対等な人間関係を築き上げる必要がある。
- ③ 子供は、自分の分身であるので、親自身が手本にならないといけない。
- ④ 子供の物質的な欲求をかなえることよりも、惜しみない愛情を注ぐことが大事である。

26

問五 傍線部(三)「あっけらかんと言う」と同様の発言を、次の①～④の中から一つ選べ。①～④は、いずれも授業を遅刻し
て先生に怒られたときの生徒の返答である。

- ① 「だって、熱があつたので…」と懸命に訴えた。
- ② 「今朝、父が倒れたので」と言うなり泣き出した。
- ③ 「目覚ましがこわれていたんで」と悪びれる様子もなかった。
- ④ 「すみません…」とだけ小声で言っとうなだれた。

27

問六 傍線部(四)「風吹くままに」という意味」とあるが、どのような態度をいうのか。その説明として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選べ。

28

- ① 「風」が吹くというような日常生活以外の自然界には、無関心でいること
- ② 現実を直視しないことを、目に見えない「風」によって意味すること
- ③ 「風」が吹くことは止められないように、成り行きに任せること
- ④ 吹いてくる「風」を肌で感じるように状況を実感すること

問七 本文の主旨と一致するものを、次の①～④の中から一つ選べ。

29

- ① 子供は、知らず知らずのうちに親の欠点を受け継いでしまうことが多いので、子供をしつける以前に、親自身がまずしっかりとした人間となることが大事である。
- ② 子供の言いなりになって甘やかしてはいけけないのは勿論のことであるが、さらに、両親が話しあって、それぞれの役割を考えて子供に接する必要がある。
- ③ テレビは、番組内容の有害性の問題よりも、コマースシャルが入るという制作上にやむをえない欠点があるので、判断力がない幼少期には見せないほうが望ましい。
- ④ 現代では「技術」や「方法」を教えることを偏重する教育が行われているが、外界との関わりの中で希望を持って生きてゆく子供たちを育てる教育こそ必要である。